

本音の
コラム



芸能人のファッション・ドラッグ使用が騒がれている。それで何年か前、国会の青少年委員会とかに参考人として呼び出されたのを思い出した。

行くと、ダルク(DARC、薬物依存者の自助的リハビリ組織)のコンちゃんこと近藤恒夫氏が先に来ていた。彼とは同い年で当事者側、治療者側と立場は違つが同僚みたいなもの。しょっちゅう一緒になるがネクタイ姿の彼を見たのはこのときだけだ。大事な会かもとよつやく気づいたが、向こうで手を振っている女性が教室(慶応大精神神経科)の後輩、水島広子氏(当時、衆議院議員)だったので、またり

藤 学
齋 藤

「人種が違う」を笑う

ラックスしてしまった。

委員会でのやり取りは覚えていない(第百五十四回衆議院青少年特別委員会議録)が一つ面白いことがあった。同じ参考人として「麻薬・覚せい剤乱用防止センター」という厚生省官僚の天下り組織の理事長がきていた。

この組織は年間何億かの税金を使い「ダメ。ゼッタイ。」とかいう間抜けなコピーの入った、芸能人の顔入りポスターを張りまくるといふ「仕事(?)」をしている。

確か今話題の女性タレントもイベントで使ったはず。その天下り老人はダルクとの連携の有無を委員の一人から訊かれたとき、「あの人たちとは人種が違つので」と言つてのけた。コンちゃんとかうと今でも「人種が違う」件が笑い話になる。

(精神科医)